

# 財政状況等一覧表（平成19年度）

(単位：百万円)

団体名 京都府笠置町

標準税収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
293	532	53	878

## 1. 一般会計等の財政状況

(単位：百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	1,554	1,529	25	25	8	1,681	基金から286百万円繰入
一般会計等	1,554	1,529	25	25		1,681	基金から286百万円繰入

## 2. 公営企業会計等の財政状況

(単位：百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
簡易水道事業会計	(歳入) 91	(歳出) 89	(形式収支) 2	2	46	445	314	
国民健康保険事業会計	(歳入) 252	(歳出) 232	(形式収支) 20	20	12	-	-	
老人保健医療事業会計	(歳入) 314	(歳出) 311	(形式収支) 3	3	34	-	-	
介護保険事業会計	(歳入) 194	(歳出) 185	(形式収支) 9	9	28	1	-	
公営企業会計等計				34		446	314	

- (注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法を適用している公営企業である。  
 2. 法適用企業に係るもの以外のものについては「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。  
 3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(△)で表示している。  
 4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

## 3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位：百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
相楽郡笠置町南山城村中学校組合	135	135	0	0	10	32	14	
京都市市町村職員退職手当組合	6,452	6,146	306	306	2,184	-	-	
京都市市町村議会議員公務災害補償等組合	2	1	2	2	-	-	-	
相楽中部消防組合	1,193	1,160	33	33	-	49	0	
相楽郡東部じんかい処理組合(一般会計)	399	380	19	19	-	878	199	
相楽郡東部じんかい処理組合(特別会計)	0	0	0	0	-	-	-	
相楽郡広域事務組合(一般会計)	657	644	13	13	-	1,544	100	
相楽郡広域事務組合(相楽地区ふるさと市町村圏)	11	8	2	1	-	-	-	
京都府自治会館管理組合	119	113	6	6	1	-	-	
京都府住宅新築資金等貸付事業管理組合(一般会計)	40	64	△ 24	4	-	-	-	
京都府住宅新築資金等貸付事業管理組合(特別会計)	1,008	677	331	303	113	2,211	40	
京都府後期高齢者医療広域連合	1,605	1,480	125	125	-	-	-	
国民健康保険山城病院組合(病院事業会計)	(総収益) 5,819	(総費用) 6,061	(純損益) △ 242	△ 242	387	8,024	136	法適用
国民健康保険山城病院組合(介護老人保健施設事業会計)	(総収益) 283	(総費用) 428	(純損益) △ 145	41	-	1,124	-	法適用
一部事務組合等計				611		13,862	489	

## 4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位：百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
(有)わかさぎ	39	9	30	71	-	-	-	-	
地方公社・第三セクター等計			30	71	-	-	-	-	

(注) 損益計算書を作成していない民法法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

## 5. 充当可能基金の状況

(単位：百万円)

充当可能基金名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
財政調整基金		121	
減債基金		2	
その他充当可能基金		517	
充当可能基金計		640	

(注) 「充当可能基金」とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

## 6. 財政指標の状況

財政指標名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A	早期健全化基準	財政再生基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
実質赤字比率	2.82	2.85	0.03	△ 15.00	△ 20.00	簡易水道事業会計		5.1	
連結実質赤字比率		6.71		△ 20.00	△ 40.00				
実質公債費比率	23.3	23.4	0.1	25.0	35.0				
将来負担比率		103.6		350.0					
財政力指数	0.27	0.28	0.01						
経常収支比率	123.2	120.4	△ 2.8						

- (注) 1. 「実質赤字比率」・「連結実質赤字比率」・「資金不足比率」は負数(△)で表示しており、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。  
 2. 「資金不足比率」の早期健全化基準に相当する「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律△20%である(公営競技は0%)。